Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第06号
2019年（令和元年） 5月17日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

4/25~5/8のNYMEX・WTIは、61.40～65.21ドルの範囲で推移した。

5月9日は、米中貿易摩擦激化による世界経済の減速懸念から、反落した。ただ、前日のEIAの米国原油在庫の取り崩し報告が下値を支えた。6月限終値は前日比0.42ドル安の61.70ドル。

週末10日は、米中貿易交渉の先行きへの警戒感から、小幅に続落した。米国内石油掘削リグ稼働数805基（前週比2基減）と2週ぶりの減少報告は影響がなかった。6月限終値は前日比0.04ドル安の61.66ドル。

週明け13日は、サウジ国営通信によるUAE東部フジャイラ沖でサウジ籍タンカー2隻が「妨害攻撃」を受け船体を損傷したとの発表があり、地政学リスクの高まりで買いが先行したが、米中貿易交渉の不調を受け、投資家のリスク回避姿勢から、米国株式市場同様、売りが優勢となり3営業日続落した。6月限終値は前週末比0.62ドル安の61.04ドル。

14日は、前日のタンカー攻撃に続き、サウジを東西に伸びる東西パイプラインが無人機（ドローン）攻撃を受け、ポンプ施設が損傷したとのサウジ国営通信報道があり、イランの支援を受けるイエメンの武装組織「フーシ派」が犯行声明を発表したことから、反発した。6月限終値は前日比0.74ドル高の61.78ドル。

15日は、EIA週報で、米国原油在庫が前週比540万バレル増と、前日のAPI発表より増加量が小さかったこと、また、先日来、中東における地政学リスクが高まっていることから、続伸した。6月限終値は前日比0.24ドル安の62.02ドル。

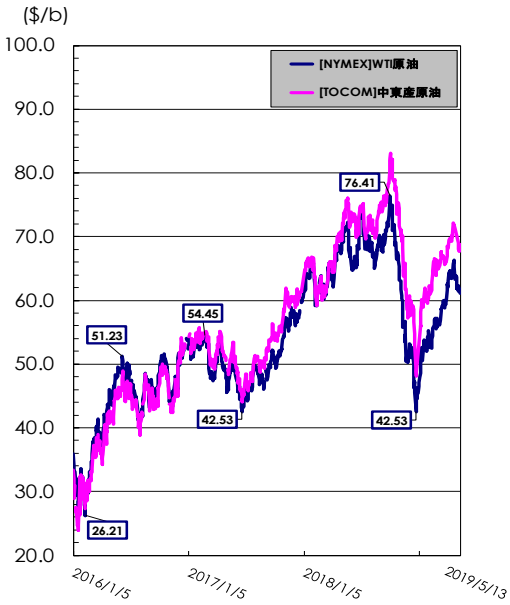
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は4月25日～5月8日の間69.40～74.30ドルの範囲で推移した。5月9日69.10ドル、10日70.10ドル、13日70.20ドル、14日70.10ドル、15日70.60ドルで推移した。

為替は4月25日～5月8日の間110.19～112.28円の範囲で推移した。5月9日110.01円、10日109.86円、13日109.74円、14日109.43円、15日109.62円で推移した。

財務省が4月26日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、47,498円/klで、前旬比629円高、ドル建ては68.09ドルで前旬比1.26ドル高。為替レートは1ドル/110.90円だった。また、13日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、48,120円/klで、前旬比622円高、ドル建ては68.86ドルで前旬比0.77ドル高。為替レートは1ドル/111.09円だった。

そのような中で、5月13日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油も同4円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに12週連続の値上がりだった。この週（5月第2週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の引き下げとなった。

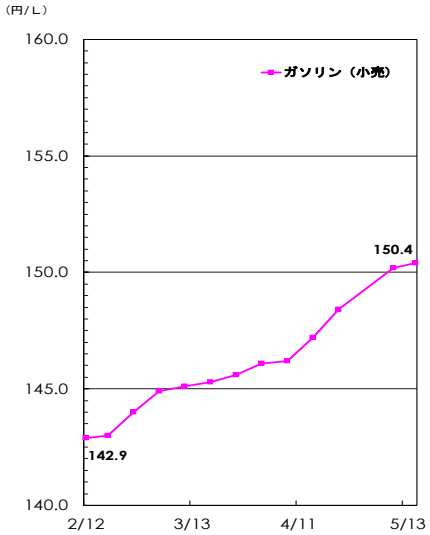
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	5/5 ～ 5/11	3,392	▼ -71	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	86.6	▼ -1.8	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	5/11	14,111	▲ 1,419	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	5/13	68.71	▼ -0.24	▼ -4.2
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	5/13	61.04	▼ -1.21	▼ -9.9
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	4月中旬	68.86	▲ 0.77	▲ 2.62
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	48,120	▲ 622	▲ 3,853
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	111.09	▼ -0.19	▼ -4.85
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	5/13	110.74	▲ 0.95	▼ -0.43



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		5/5 ～ 5/11	874	▼ -140	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	883	▼ -68	▼ –
	輸出		〃	19	▼ -25	▼ –
	在庫		5/11	1,575	▼ -29	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	5/7 ～ 5/13	65.1	▼ -0.6	▼ -0.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/7 ～ 5/13	61.2	▼ -2.9	▼ -4.0
		(TOCOM/中部)	5/13	62.5	▼ -3.6	▼ -3.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	5/13	150.4	▲ 0.2	▲ 3.3

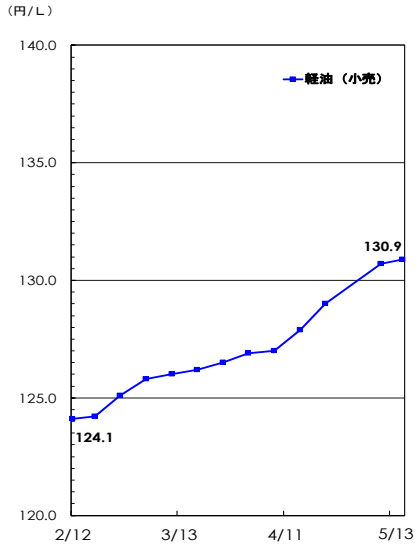
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

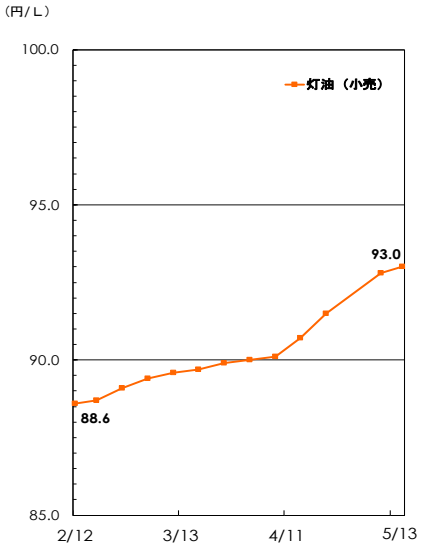
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		5/5 ～ 5/11	735	▼ -36	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	522	▲ 220	▼ –
	輸出		〃	163	▼ -30	▲ –
	在庫		5/11	1,521	▲ 50	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	5/7 ～ 5/13	68.3	▼ -0.9	▲ 1.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/7 ～ 5/13	69.8	▲ 2.8	▲ 4.0
		(TOCOM/中部)	5/13	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	5/13	130.9	▲ 0.2	▲ 5.2

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		5/5 ～ 5/11	193	▼ -14	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	125	▼ -3	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		5/11	1,235	▲ 69	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	5/7 ～ 5/13	68.0	▼ -0.9	▲ 2.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/7 ～ 5/13	63.9	▼ -2.6	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	5/13	65.4	▼ -1.1	▼ -0.7
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	5/13	93.0	▲ 0.2	▲ 3.8



■ 関連情報

1　海外/原油

5月15日のNYMEX市場WTI原油は、前日夕刻発表の米石油協会(API)の前週末米国原油在庫が前週比860万バレル増と市場予想(同80万バレル減)に反したことから売りが先行したが、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が同540万バレル増と積み増し量が圧縮されたこと、ガソリン在庫が同110万バレル減となったこと、さらに、中東における地政学リスクの高まったことから、買い戻され続伸した。なお、サウジ内閣はパイプライン破壊行為を批判する声明を発表した。6月限の終値は前日比0.24ドル高の62.02ドル、7月限の終値は前日比0.28ドル高の62.24ドル。

EIAによると、5月13日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.1セント値下がりの1ガロン2.866ドル(83.7円/㍑)、ディーゼルは同1.1セント値下がりの3.160ドル(92.3円/㍑)となった。ガソリンは14週ぶりの値下がり、ディーゼルは6週ぶりの値下がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年5月5日～5月11日に休止したトッパー能力は28.0万バレル/日で、前週に対して変化はない。(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は339.2万klと、前週に比べ7.1万kl減少。前年に対しては10.7万klの増加。トッパー稼働率は86.6%と前週に対して1.8ポイントの減少、前年に対しては2.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/13.8%減、ジェット/3.5%減、灯油/6.6%減、軽油/4.7%減、A重油/12.7%増、C重油/48.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は16.3万kl(前週比3.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は88.3万 kl(対前週7.2%減)と前週比で3週振りで減少となり、19週連続で100万klを下回った。ジェット9.1万kl(対前週4.9%減)、灯油12.5万kl(対前週2.7%減)、軽油52.2万kl(対前週72.6%増)、A重油17.3万kl(対前週179.1%増)、C重油16.7万kl(対前週157.3%増)。

(単位：千KL)

	今週 (5/5 ~ 5/11)	前週 (4/28 ~ 5/4)	前週比	
ガソリン	883	951	▼ -68	(-7%)
ジェット燃料	91	96	▼ -5	(-5%)
灯油	125	128	▼ -3	(-2%)
軽油	522	302	▲ 220	(73%)
A重油	173	62	▲ 111	(179%)
C重油	167	65	▲ 102	(157%)
合　計	1,961	1,604	▲ 357	(22%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

5月11日時点の在庫は、ガソリン、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.5万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては14.4万kl少ない。

灯油は123.5万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては24.8万kl少ない。

軽油は152.1万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては3.4万kl少ない。

A重油は79.9万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は196.1万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては7.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/11)	前週 (5/4)	前週比	
ガソリン	1,575	1,604	▼ -29	(-2%)
ジェット燃料	922	809	▲ 113	(14%)
灯油	1,235	1,166	▲ 69	(6%)
軽油	1,521	1,471	▲ 50	(3%)
A重油	799	804	▼ -5	(-1%)
C重油	1,961	1,928	▲ 33	(2%)
合　計	8,013	7,782	▲ 231	(3.0%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

5月7日～13日の原油価格は、5月7日比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、5月7日～13日の間、ガソリン117～120円台で大きく値下がり、軽油67～70円台で大きく値下がり、灯油67～69円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン119～121円台で大きく値下がり、軽油69～71円台で大きく値下がり、灯油64～67円台で大きく値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114～116円台で大きく値下がり、軽油69～70円台で横ばい後大きく値上がり、灯油63～64円台で値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社1.5円の引き下げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

5月7日～13日の製品スポット市況は、軽油の海上と先物を除く全油種・全取引で、4月23日～29日平均と比べ値下がりした。

5月第3週（5/16～5/22）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（5/7～5/13千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前々週比で、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は0.9円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前々週比で、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油は2.2円の値下がり、軽油は1.4円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.9円の値下がり、灯油は2.6円の値下がり、軽油は2.8円の値上がりだった。

5月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の引き下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(5/7 ~ 5/13)	前週　(4/23 ~ 4/29)	前週比
スポット価格	レギュラー	65.1	65.7	▼ -0.6
	灯油	68.0	68.9	▼ -0.9
	軽油	68.3	69.2	▼ -0.9

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(5/7 ~ 5/13)	前週　(4/23 ~ 4/29)	前週比
先物価格	レギュラー	61.2	64.1	▼ -2.9
	灯油	63.9	66.5	▼ -2.6
	軽油	69.8	67.0	▲ 2.8

※上記価格は税抜き価格

参考値　（5/7～5/13実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▼ -2.9	▼ -1.7
灯油	▼ -0.9	▼ -2.6	▼ -1.7
軽油	▼ -0.9	▲ 2.8	▲ 1.0
A重油	▼ -0.8		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

5月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の150.4円、軽油も同0.2円高の130.9円、灯油は18㌔㍑ベースで同4円高の1,674円（1㌔㍑ベースでは同0.2円高の93.0円）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに12週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが32道府県、横ばいが7県、値下がりが8都県だった。全国最安値は徳島県の145.8円（前週比0.2円高）、次が埼玉県の146.5円（同0.6円高）、最高値は長崎県の159.2円（同0.7円高）であった。最も値上がりしたのは1.1円高の宮崎県（152.7円）、横ばいは沖縄県等7県、最も値下がりしたのは0.5円安の宮城県（148.4円）だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の引き下げとなった。

今週は、原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の引き下げとなった。次週（5月20日）のガソリン・灯油の小売価格は値下がりが予想される。

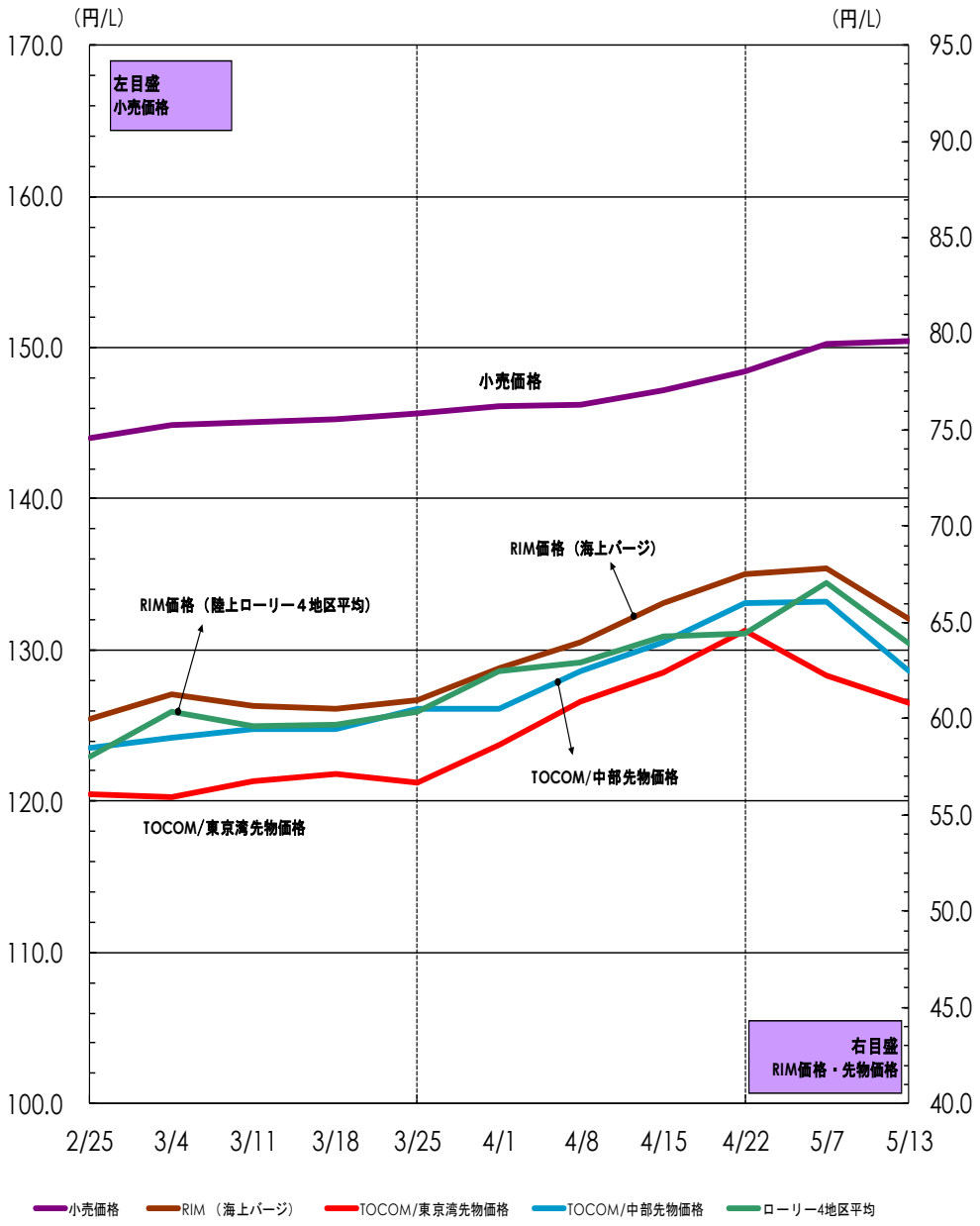
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(5/13)	前週　(5/7)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	150.4	150.2	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	93.0	92.8	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	130.9	130.7	▲ 0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/2/25　～　2019/5/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第7号）の公表は、5/24（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。